

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム江並福寿苑
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	岐阜県大垣市外洲4-97-1
記入者名 (管理者)	安江明子
記入日	平成 21年 2月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中で、その人が生きてきた暮らしを継続できるように支援していくことを理念としている。		地域の中でいかにその人の生活を存続させていくことを、どのように支援すれば実現していくのかを共通理解できるような理念に見直していくことも必要と思っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	エレベーターの中や事務所に理念を掲げて、月に1回の介護でも確認しあうことで意識付けを行っている。		左記の取り組みを継続していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会において、話をする機会を設けている。		左記の取り組みを継続していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	散歩や外出時にすれ違う方や、近隣のお祭り等に参加した際などに挨拶をしている。また、出・退勤の際、駐車場から施設までの間にお会いすれば、挨拶を交わすようにしている。		地域の住民として、ますます関わりを持っていけるようにしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事は数が少ないが、自治会に参加し地域活動等可能な行事には参加するようにしている。		左記の取り組みを継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の際に、自治会長さんや民生委員さんなどの地域住民の方からの意見をお聞きするようにしている。		認知症の勉強会などを行い、病気や加齢に対する理解を深めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度は自己評価を行い、その内容について各自で見直しをし、また管理者等と検討をするなど、改善に向けて取り組んでいる。		各自や施設全体の自己研鑽のための機会を作り、職員の力のボトムアップに取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて出されたご意見を、職員会議の際に伝達・検討し、サービスの向上に努めている。		定期的に運営推進会議を行い、自社サービスの向上に有効に活かしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の提出時に訪問した際に担当者とは話をしたり、質問事項等電話にて確認するなど、不定期ではあるが連絡をとっている。また、市主催の会議等に参加し、情報を得ている。		良好な関係作りに努め、双方の情報を交換する事で、サービスの向上につなげていけるようにしたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市や県主催の研修に参加し研修報告を提出する事で、スタッフ全員に理解できるようにしている。必要のある方については、随時検討できるよう情報の共有に努めている。		実際に活用の対象となるかどうかは、ご家族や関係機関と検討しながら、適切に活用できるよう支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の場で幾度となく伝達し、共通理解を深め、職員一人一人の意識を高めるようにしている。		小さなこともお互いが見逃さずに注意し合い、正しい事が正しく行われる職場を目指して努力を続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>2～3度の訪問または来所にてコミュニケーションを図り、不安な点等は入退所前に解決できるようにしている。</p>	<p>ご利用に対しては不安がつきものなので、いかに安心していただけるかをいつも考えながら対応していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に一度はご本人に対し、現在の不満等をお聞きするようにしている。必要時はスタッフに伝えたり、ケアプランに反映させている。</p>	<p>「世話になっているから」とあまり感情などを出されない方が多いので、その心の内を探り、心から楽しく過ごしていただけるように環境を整えていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には、前回の面会からの様子で良い変化や悪い変化等含めて話をするようにしている。職員の異動等に関しては、運営推進会議や、面会の際に伝えている。</p>	<p>カルテを見ていただき、ご本人の変化がわかりやすく伝わるようにしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議のような公の場では、なかなか苦情がでてこないのので、面会時等に会話の中でお聞きするようにしている。個別にお聞きできた苦情に関しては、早い段階で解決するようにしている。</p>	<p>玄関に苦情投書箱を設置し、気軽に書き込めるようにしたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議の場で広く意見を求めている。また、その日の出勤者と言葉を交わす中で、いろいろな話を聞き、運営に反映させている。</p>	<p>1対1で話を聞くことが大切だと考えるので、こえからもますます時間を作っていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>シフトは基本は固定であるが、利用者様の状態に合わせ、スタッフの意見を調整したうえで融通を利かせている。</p>	<p>柔軟に変化できるようにしていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの関係による安心感作りに尽力している。特に不安定になる方については、あまり新しい職員と関わらせる事のないようにするなど配慮している。</p>	<p>左記の取り組みを継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県主催の研修に、勤務年数や経験に応じて選択したものを勧め、受講の機会を与えている。</p>	<p>左記の取り組みを継続していきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、市主催の研修等に参加し、市内の同業者との情報交換を行っている。その内容について、模倣できる所は実践に移すようにしている。</p>	<p>地域の同業者とは、よい刺激を与え合い互いに向上し、よいサービスを提供していけるようにしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>福利厚生などを利用し、職員が集まり不満を言い合える機会を作っている。また、職員の休憩方法については、各自の気分転換方法でストレス解消を図ってもらうようにしている。</p>	<p>左記の取り組みを継続していきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得を応援し、手当てをつける等、各自が向上心を持って勤めることができるようにしている。</p>	<p>職員の向上心を刺激するような取り組みを、ますます継続していきたい。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談を行うことにより顔なじみの関係を作り、ご本人に寄り添った対応でお話しをお聴きすることで、感情や思いを聴きだせるよう努力している。</p>	<p>ご本人の混乱を受け止め、受容し共感する事で、少しでも安心していただけるように努力していきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談を行うことにより顔なじみの関係を作り、ご家族に寄り添った対応でお話しをお聴きすることで、感情や思いを聴きだせるよう努力している。</p>	<p>ご本人の混乱を受け止め、受容し共感する事で、少しでも安心していただけるように努力していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	トータル的にアセスメントを行い全体像を把握することで、何が解決すべき問題か、またその解決策を見極められるように努力している。		入所だけが解決策ではないということを、まず念頭において対応していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族には、現場の雰囲気を感じてもらうために施設内を見学したりしていただいている。ご本人には、それはできていない。		お試し入所などのシステムを導入して、ご本人が納得の上で利用していただけるようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	いろいろな話をする事でその方の背景を知り、今起こっていることをその方と同じ目線で感じ、受け止めることができるように努力している。		あくまでも側面的な支援である、という観点を忘れずにいたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や担当者会議時に、ご本人を支えている存在として同じ立場に立ち、話を聞くようにしている。		ご家族あってこそその現在の生活であることを忘れず、共に支えていくというスタンスでいたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係についてはおいおいでないとわからない事が多く、わかった時点で職員が共通の認識をもち、ご本人とご家族が良好な関係でいられるように支援している。		ご家族との関係に、どこまで立ち入っていいのかは、その都度様子を見ながら対応していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には気持ちよく時間を過ごしていただけるように、雰囲気作りに努めている。		なじみの場所は、記憶の中にのみ存在するということが多いため、関係の継続は困難であるが、その思いは否定せず受け止めていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気が合う合わないは必ずあるものであり、関係の把握には努力している。食事の際の席など配慮している。		その都度、問題解決のためにスタッフが関わっていく事も必要であると考えます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在の所、そのような事例はない。		今後必要に応じて、契約終了後の関係作りに努めていきたい。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者様の表情や言葉から思いや意向を察するよう努力している。		左記の取り組みを継続していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、面会に来られた知人などから、少しずつ情報を得るように努めている。		担当スタッフを中心となり、他のスタッフと協力しながら、把握に努めたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様一人一人の生活リズムや、その日に起こったことなどを記録に残して把握するように努めている。		現状の把握を継続的に意識しながら支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いや意思をお聞きし、担当スタッフとご家族との話し合い後、チームスタッフでも検討を重ねながら、介護計画の作成に活かしている。		左記の取り組みを継続していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な担当者会議以外にも、退院時や状態の変化があった場合には、ケアマネジャー・看護師・スタッフ・ご家族等で計画の見直しを行っている。		状況に応じ、柔軟にプランの変更をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の食事・排泄・エピソード等を、いつでも職員は確認できるようにしており、職務開始前には確認することを義務付けている。		利用者様の現状把握のためにも、大切な記録の充実にかがけていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院などの支援を行っている。		左記の取り組みを継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要があるときには、地域資源や消防等と連携しながら支援している。		行事計画をたて、地域資源と関わる機会を作っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があるときにはすぐに連携が図れるように、他の事業所やケアマネジャーとの関係作りをしている。		左記の取り組みを継続していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは常にコミュニケーションを図りながら、必要時にはすぐに対応できるようにしている。		左記の取り組みを継続していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族と相談の上かかりつけ医を決定し、ご本人・ご家族の意向を伝えながら医療の確保に努めている。		高齢であればあるほど医療とは切り離せないもので、随時納得を得ながら医療を受けられるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医による治療は、必要のある方には受けていただいている。		さらに専門的な治療や診断が必要と判断されれば、認知症専門医への受診も考えていく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で看護師を配置し、常時連絡が取れるようにしている。スタッフは気軽にわからないこと等を質問し、知識を向上させている。		左記の取り組みを継続していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は定期的に面会に行き、医療関係者との情報共有に努めている。		左記の取り組みを継続していきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族との話し合いは早い段階から持ち、必要があれば医師との面談も支援している。		ご家族を含めたカンファレンスを3～6ヶ月に一度程度施行していく。その場で症状等を報告し、予測できる今後の症状に対する確認している。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入所時に延命希望についての説明書をお渡ししている。必要な医療処置は個人差が生じてくるため、予測できる事に対して勉強会等を行い、知識・技術を身につける。		医師によるインフォームドコンセントをもらい、ご家族納得の上で進めていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	暮らしなれた環境に近づけられるよう、ご家族からの情報をもとに環境づくりに努めている。入所時はできるだけ面会に来ていただけるようお願いしている。		落ち着かれない時にはその都度、外出等の気晴らしの支援をして、穏やかにいていただけるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人ひとりを尊重するように、職員会議や随時プリント等にて意識付けている。	職員同士が注意し合えるよい雰囲気作りをしていきたい。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	こちらが決めるのではなく、まずご本人にお聞きし自己決定を促すようにしている。ご本人の能力に合わせて支援している。	意思の伝達ができない方についても、意思を汲み取る努力はし続けたい。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	例えば、消灯時間を決めず好きな時間に休んでいただく、起きる時間をある程度自己決定にまかせたり、ご本人の行動を制限せずに見守る等の支援をしている。	だいたいの生活のリズムは保持しながらも、個人の体調や思いに合わせて支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	服はなるべくご自分で選んでいただく等、個人の趣味や好みを引き出すようにしている。理容は、定期的に出張散髪にて対応している。	個人の好みを引き出し、購入する洋服等も一緒に選びにいけるようにしたい。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	皮むきやテーブル拭き等の軽微な作業については、個人の能力に応じて、できるだけ参加してもらおうようにしている。	左記の取り組みを継続していきたい。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	ご本人が好まれる食品や嗜好品は、病状等を踏まえた上で、楽しんでいただけるように支援している。	その方の状況に合わせた嗜好を楽しめるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンは記録に残し、それに合わせた誘導を行うことで失禁を減らすようにしている。		左記の取り組みを継続していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一週間を通じてあり、当日にご本人に意思を確認する。拒否のある場合はよほどでない限り無理強いはない。清拭等に対応する場合もある。		お湯につかる時間や湯の温度等、個人の好みに応じて調整し、入浴を楽しく行えるように支援していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠状態や体調等を考慮し、一人ひとりに合わせた休息の支援をしている。生活のリズムが作れない方に対しては、リズムが乱れないように午睡などで調整させてもらっている。		左記の取り組みを継続していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	興味を持つことを探り、それに触れる事で生活の中で楽しみを持てるように支援している。		1日1日を、楽しく笑って過ごせるように支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。お金に対して思いがある方については、ご家族に了承を得て、手元にいくらかのお金を持っていただいている。		外出時に買い物をしたり、必要なものを購入する際には、ご本人の能力に応じて支払をしてもらうようにしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があり、他の利用者様の安全も確保できるときは、外出支援をしている。		スタッフ外出の際には、可能であれば一緒にでかけたりするなど、柔軟な行動をしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望を訴えられることがほとんどないが、いろいろな話からご本人の思いを推察したりし、希望を叶えるようにしている。		ご要望をお聞きする事から始まるので、しまつてある思いを引き出せるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあれば電話をかけ、話をできる機会を作っている。		左記の取り組みを継続していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には居心地よい雰囲気を感じてもらい、また訪問したいという気持ちで帰っていただけるように配慮している。		継続して訪問していただけるような配慮をし続けていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為について資料を読んだり勉強会をしながら、拘束のないケアに取り組んでいる。		スタッフ間で何度も話し合い、意識付けをしていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	国道沿いに立地しているため、弊害を理解しながらも暗証番号にての施錠を行っている。居室の鍵はかけていない。		好きなときに外へ出られないことで、ストレスや不満を抱えてしまうことを十分に認識している事が必要である。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアで見守りし、居室で過ごされている利用者様には随時訪問して安全に配慮している。		利用者様が安心して暮らしていけるように支援していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	事務所にて保管・管理している。使用の際には職員が付き添うなど安全に配慮している。		左記の取り組みを継続していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険物を取り除いたり、利用者様に合った食事形態にしたり、誤嚥防止のため確認を怠らないように気を配っている。		日頃から事故防止に努め、リスクに対する職員の意識付けをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者様の急変時の対応については、スタッフと看護師が連携して対応できるようにしている。		急変時の対応についての勉強会に加え、年に一度は救急講習会を実行できるようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	できていない。		定期的な避難訓練を行い、避難経路や手順、緊急連絡の実際などを意識付けていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	定期的、もしくはADLの低下時等ご本人の状態に合わせてリスクアセスメント等を行い、ご家族に説明している。		リスクの説明とケアの方向性の話し合いは、継続して行い、ご本人ご家族ともに安心して暮らしていただけるようにしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回の申し送りを実施し、利用者様の体調の変化等全員が把握できるようにしている。異常時には、事故報告書や連絡ノート等書面にて報告し、事態の把握に努めている。		毎日のカルテにも同様の情報を記載する事で、全員が情報を共有できるようにしていく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤情報をはさみ、いつでも内容を把握できるようにしてある。確実に服薬できるように、スタッフ間でその都度薬の内容を確認し合い、誤薬のないように注意している。		左記の取り組みを継続していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の有無については常に把握し投薬やお茶やヨーグルトなどを利用して便秘解消に努めている。また、トイレ誘導時等に、腹部マッサージを行っている。全介助の利用者様も、トイレ誘導し、座位での排便を促している。		左記の取り組みを継続していきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけ、誘導にて口腔ケアを実施している。歯牙や歯肉の状態に合わせた用具を使用している。		左記の取り組みを継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立ノートを活用する事で、メニューが重複しないように心がけている。個人カルテに摂取量を記入し、必要量の摂取支援に努めている。		利用者様の習慣に応じて、個別な対応ができるようにしていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ケア前後の手洗い、消毒、手袋の着用を徹底している。個別に対応すべき感染症に関しては、マニュアル化したものを見ながら対応できるように整えている。		一般的な感染症の対応マニュアルを作成したい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物時には在庫の確認を行い、衛生管理に努めている。食器等は毎回熱湯をかけて消毒している。布巾等は漂白剤を使用し、衛生的に使っている。		左記の取り組みを継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、装飾品にて季節感をだすようにしている。また、玄関にあいさつ札をおくことで、入りやすい雰囲気作りに努めている。		清潔感のある玄関周りにしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	構造上の問題により、自然光が少ないが、照明や窓、カーテンにて調整し、居心地のよい空間作りに努めている。		ディスプレイや生け花などで、華やかで静かな空間作りに努めたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよい場所にソファを設置し、一人または複数でも過ごせるようにしている。各ご利用者様の居心地のよい場所を、スタッフが把握するようにしている。		利用者様の行動を観察し、居心地のよい空間作りを目指していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使い慣れたものやなじみの物を持ち込んでいただいてよい旨お伝えするが、あまり持ち込まれることがない。簡易な家具等は持ち込まれ、使用される方もおられる。		利用者様に馴染みのあったものなどは、ご家族にお聞きするなどして、居心地のよい居室にしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温湿度計を設置し、常時確認することで快適な空間作りに努めている。		左記の取り組みを継続していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物がないことや、フラットである事など、安全に配慮した環境を整えている。居室内部はご本人の好みや身体能力に応じて、洋間もしくは畳をひいた作りをしている。		左記の取り組みを継続していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	アセスメントを行い、ご本人の状態を把握することで、その方の能力を引き出した生活ができるように努めている。		できること、できないこと、やればできることなど、細かくアセスメントして、どの部分を支援すれば自律できるのかを把握していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気がよい日や、希望があるときには、屋上など散策している。		ベランダで観葉植物や花などを育て、利用者が楽しめるようにしたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

決してよいとは言えない立地環境の中で、日々の暮らしをいかに穏やかに楽しく過ごしていただけるかを常にスタッフは考え、ご利用者様の生活を支えています。介護技術や生活リズムの押し付けなどの「スタッフ都合の流れ」の中での生活ではなく、最小限の管理と最大限の関わりをもって、共に考え、悩み、喜び、行動しながら、その方の貴重で特別なその日一日を、一緒に過ごしています。日常の中にも時々アクセントがあるように、近隣の大型スーパーヘウインドウショッピングやお茶を飲みに出かけ、気分転換を図っています。月に一度は誕生会を兼ねた音楽療法を行い、懐かしい歌や物などに触れ、楽しい時間を共に過ごしています。身体的に介護度の高い方が多いため、活動に制限が出てきてしましますが、その中でも楽しみとじていただける何かがあるように、スタッフ一丸となって努力しています。